

長 浜 警 察 署 協 議 会 議 事 録

開催日時	令和3年7月14日（水） 午前9時45分～午後0時	
開催場所	滋賀県警察本部生活安全部地域課水上警察隊長浜詰所	
出席者	委員	山崎識副会長、栗原裕子委員、西村圭司委員、樋口幸永委員 畑下嘉之委員、野坂大介委員、廣部恭子委員
	警察	署長、調査官（警務課長）、地域課長 警務係長（書記）、警務課員（書記）
議事概要	<p>第89回長浜警察署協議会</p> <p>1 副会長挨拶</p> <p>例年、滋賀県では琵琶湖における水難事故が発生しており、長浜市も例外ではないと聞いている。本日は水難救助訓練を通じて警察の取組を拝見させてもらえる有意義な機会であり、しっかりと視察させていただき、皆様からの活発な御意見をお願いします。</p> <p>2 署長挨拶</p> <p>長浜警察署では琵琶湖における事件・事故も取り扱っており、また、年間を通じて沢山の方がレジャーや観光に来られますので、これらの方に対する啓発活動を推進し、事故防止をお願いしているところです。今日は水難救助訓練をご視察いただき、我々とは違う目線からのご提言をいただきますよう、よろしくをお願いします。</p> <p>3 水難救助訓練視察</p> <p>4 議事</p> <p>(1) 水難事故の現状と対策</p> <p>地域課長より「水難事故の現状と対策」に関する説明があった。</p> <p>(2) 意見等</p> <p>(委員)</p> <p>地域の安全ばかりではなく、水上の安全にも配慮しており、改めて警察の仕事の広さを実感した。その中で啓発活動について、県外から来る人に対してどのような啓発をしているのか。</p> <p>(警察)</p> <p>平日や土日を問わず、長浜港等において声掛けを行い、水上安全に対する</p>	

意識の高揚に努めている。

(警察)

県警としてはホームページの他、SNS等も活用して啓発を実施している。また、水上安全協会と連携してチラシの配布を行うこともある。

(委員)

飲酒が関係した事故の発生はあるのか。

(警察)

長浜警察署管内での水上取締りでは、今のところ、飲酒による操船が発覚したという事例はない。

(警察)

操縦資格が必要な船舶等は飲酒による操船は禁止されている。しかし、水泳の場合、飲酒状態で琵琶湖に入り亡くなられたという事例もあり、今後、このような事故を防止するための啓発も必要であると感じている。

(委員)

水難救助では、ヘリは活用していないのか。

(警察)

湖上でピックアップするための装備を整え、訓練もしているが、今のところ、湖上におけるピックアップによる救助はない。

(委員)

ドローンを活用する予定は無いのか。

(警察)

業者と提携しており、必要であればドローンによる捜索も実施する。県警ヘリによる上空からの捜索は実施している。

(警察)

ヘリによる上空からの捜索で要救助者を発見し、そこへ警備艇が救助に向かうことはある。

(委員)

入水自殺は多いのか。

(警察)

時々ある。

(委員)

琵琶湖で漂流した場合等の救助はどのようにして求めるのか。

(警察)

琵琶湖上では、ほぼ全域で携帯電話が繋がる電波状況となっており、携帯電話が利用されている。

(委員)

G P Sは活用しているのか。

(警察)

活用している。

(警察)

海の場合は118番通報で海上保安庁に直接繋がるが、琵琶湖は海上保安庁の管轄外なので110番通報するようにお願いしている。水没しても使用できる携帯電話用の袋等も販売されており、利用を推奨している。

(委員)

学生や子供に向けた啓発、学校に対する啓発はどのようにしているのか。

(警察)

交番等の各所管区が毎月発行しているミニ広報紙に水難事故防止の記事を掲載しており、今回の訓練は報道機関にも取り上げていただけたと考えている。また、学校に対する啓発も、今後、実施していきたいと考えている。

(委員)

子供たちが実際に見られるようなSNS等を活用すれば効果的だと思うし、保護者に対する啓発も有効だと思う。

バス釣り等で使用されている簡素なボートは資格が必要なのか。

(警察)

原則的に船外機付のボートは免許が要るが一部不要なものもある。手漕ぎボート等、船外機が無いボートは免許を要しない。

(警察)

法律の改正により、手漕ぎボート等に2馬力以下の船外機を取り付けた場合は、免許は不要となっている。

(委員)

水上バイクは、どの程度、沖まで出られるのか。また、水泳場に対する規制はあるのか。

(警察)

一部規制区域もあるが、琵琶湖はほとんどが航行可能水域となる。また、

水泳場には保安水域があり、その保安水域には入れないという決まりがある。

(警察)

水上バイクには沿岸から一定の距離の水域が航行区域として定められている。琵琶湖沿岸も同様であり琵琶湖の一部を除いたほぼ全ての範囲が航行可能水域となる。

(警察)

長浜港では有料スロープが利用でき、今後、利用者が増えると思われる。

(警察)

本部では、若者に対する広報について検討し、SNS等を開設したが伸びなかったという現状があり、今後、学校への啓発も含め、内容を検討していく。

(委員)

ライフジャケットについては、どのような規制があるのか。

(警察)

小型船舶の乗船者にはライフジャケットの着用が義務化されているが、大型の観光船の場合は努力義務となっている。

(警察)

観光船の場合、船の定員数のライフジャケットを用意し、出航前に確認するという規定になっているが、着用については努力義務となっている。

(委員)

訓練はどの程度の頻度で行っているのか。

(警察)

水難救助訓練等の大がかりな訓練は年間1回で、AED操作訓練や人工呼吸等の訓練を、年間数回実施している。

(警察)

訓練については、逮捕術や非常時の訓練等、色々な訓練を実施している。

(委員)

110番通報があれば、どのような手順で救助に行くことになるのか。

(警察)

本部の無線を傍受した場合、現場から直近の警察官が臨場する。沿岸からの救助が可能であれば救助活動を開始し、沖合である場合は水上警察隊等に

応援要請している。

(委員)

外国人への啓発はどのように実施しているのか。

(警察)

外国人への啓発はできていないのが現状で、今後、多言語に対応した啓発チラシについても考えていきたい。

(委員)

水難事故等で出動する時というのは天候が悪い時か。

(警察)

強風注意報等の注意報が出ている時が多いが、警報の時は少ない。

(委員)

警備艇によるパトロールで抑止効果は期待できるのか。

(警察)

無免許での操船等、違反をしている者にとっては怖い存在であり、警備艇によるパトロールは抑止効果がある。

(委員)

警備艇によるパトロールはどの程度の頻度で行われているのか。

(警察)

警備艇によるパトロールは滋賀県警察本部所属の水上警察隊が実施しており、これから夏場に向け、本格的に実施される。

(警察)

ウインドサーフィンは風が吹かないとできないことから、強風注意報が発令されると逆に人が出てくるという傾向があり、しっかりと啓発しなければならないと考えている。

(3) 次回開催日程

次回開催日は 10 月以降で、詳細な日時、議題等については後日連絡することとなった。